

こうのとり

但丹家畜衛生だより

第54巻 第1号（令和4年9月）

朝来家畜保健衛生所
（兵庫県畜産協会朝来支部）

TEL(079)673-2331・FAX(079)672-0506

E-mail: asagokhe@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ: <https://kaho-hyogo.sakura.ne.jp/kaho/>



第12回全国和牛能力共進会（種牛の部）県最終予選
令和4年7月25日 丹波篠山市

目次

巻頭言	1
第57回兵庫県家畜保健衛生業績発表会	2
管内でのJGAP認証取得への取り組みと今後の支援方策 ブロイラー産地における高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生に備えた防疫対応 ヨーネ病スクリーニング遺伝子検査法の山羊における有用性の検討	
家畜防疫情報	5
家畜疾病情報／家畜衛生情報	6
令和4年度新任職員紹介／職員配置	7

「着任のごあいさつ」

所長 加登 岳史



平素は、家畜衛生の推進について、御理解と御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

4月より所長として勤務しております。但馬は2年前まで在籍した北部農業技術センター以来で、家畜保健衛生所は初めてになります。よろしくお願いいたします。

さて、畜産関係の情勢ですが、国際的な穀物需要の増加やウクライナ情勢等に伴う飼料原料価格の上昇等により、配合飼料価格が高騰しています。国では配合飼料価格安定制度の補填の発動及び県でも独自の支援を打ち出し、畜産経営への影響の緩和に務めているところです。

但馬牛関連では、子牛・枝肉価格とも新型コロナウイルスの影響から回復傾向にあり、子牛価格では前年月対比で最大1割程度の上昇と堅調に推移していましたが、7月以降は低迷し、飼料高騰の影響が現れてきたようにも思えます。

また、今年是全国和牛能力共進会が10月に鹿児島県において開催されます。本県代表として管内から10頭もの優秀な牛が出品されますので、健闘を祈ります。

次に家畜衛生関連の情勢です。

養豚関係では、豚熱の感染が止まることなく、4月以降3県6事例で現在17県83事例の発生となっております。

県内では、野生いのししでの豚熱感染が138例(9月13日現在)と拡大しており、養豚場等の周辺で確認されていることから、養豚等での発生リスクが高くなっています。防護柵の点検や消毒の徹底など、引続きの

飼養衛生管理基準の遵守をお願いいたします。

養鶏関係では、昨年11月から今年5月にかけて12道県25事例の高病原性鳥インフルエンザの発生がありました。本県においても、2年連続で発生があり迅速な防疫対策により、まん延することなく清浄化が達成されたところです。

発生時期が11月上旬と早くなっており、これから秋を迎え渡り鳥が日本へ飛来し、鳥インフルエンザの発生を警戒する本格的なシーズンとなりますので、引き続き防疫対策の徹底、飼養衛生管理基準の遵守をお願いいたします。

さて、本県では「^{みけつくに}御食国ひょうご 令和の挑戦」として、ひょうご農林水産ビジョン2030を策定しています。家保としても、施策推進項目にある「食の安全を支える生産体制の確保」に向け、安全な畜産物の供給や畜産経営の維持、継続のため、畜産農場におけるHACCP対応や畜産GAPの取得推進、口蹄疫や豚熱、鳥インフルエンザ等重大家畜伝染病の発生・まん延防止に取り組んでいます。

管内には、農場HACCP・畜産GAPを取得された農場が肉用牛及び養鶏で4箇所あり、今後も取得に向けた農場支援を実施して参ります。

新型コロナウイルス感染症の第7波も収まる気配が見えない中ではありますが、これからも家畜衛生の分野で管内の畜産振興に寄与して参りますので、職員一同、引き続きよろしくお願いいたします。

第57回兵庫県家畜保健衛生業績発表会

令和4年6月17日に神戸市教育会館で家畜保健衛生所の運営並びに家畜の保健衛生に関連した事業・調査・試験研究等の業績発表会が開催されました。当所から発表した演題と内容を紹介します。

管内でのJGAP認証取得への取り組みと今後の支援方策

衛生課 田丸 大智

【GAPについて】

食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証の一つとしてGAP（農業生産工程管理）というものがあります。世界各国で様々なGAP認証の制度が存在し、国内農場ではJGAP、ASIAN GAPおよびGLOBAL G.A.P.の取得実績があります。

欧米の大手食品企業を中心に、GAP認証を取得していることを農産物取引の条件とする企業が増えています。また、東京オリンピックの選手村の食事には、JGAP認証を取得している農産物が使用されるなど、年々その必要性が高まっています。

【管内の認証取得状況】

JGAP認証について、管内では丹波市の採卵養鶏農場1農場と、香美町の肉用牛農場2農場の、計3農場が認証を取得しています。当所は認証取得に向けて家畜衛生関連の書類点検や飼養衛生管理指導等の支援を行いました。

【認証取得における課題と解決策】

畜産分野におけるJGAP認証は2017年より始まりましたが、国内の認証農場数は2022年3月時点で250農場と、全国的に認証取得は進んでいない状況です。そこで、認証取得における課題検証のため、県内の指導員11名にアンケートを行いました。結果を図1に示します。過半数の指導員が回答した意見を青枠で示しました。

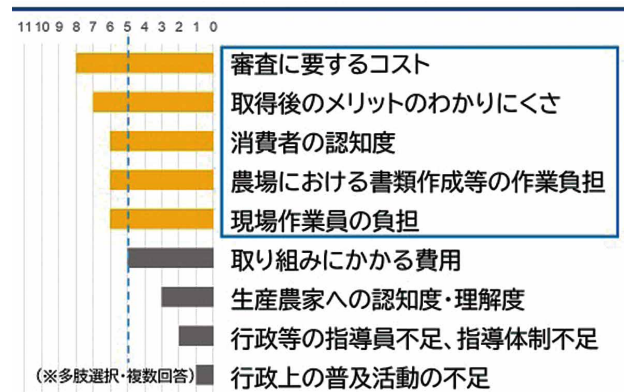


図1 認証取得における課題

これらの課題解決には、家畜保健衛生所や県関係機関、民間JGAP指導員による支援体制強化、行政による認証体制見直し、小売店と協力した消費者へのPR活動などが必要と考えられます。

以上より、家畜保健衛生所はJGAP認証取得の取り組みにおいて、農業改良普及センターなどの関係機関と協力しながら農場の衛生管理指導や書類点検などを行い、農場の認証取得を支援し、畜産物の安全性向上に寄与していきます(図2)。

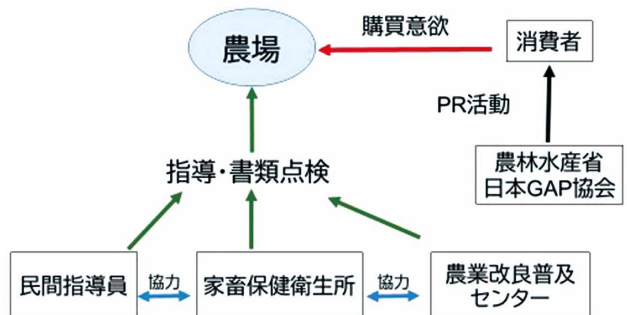


図2 支援体制強化のイメージ

ブロイラー産地における高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) 発生に備えた防疫対応

防疫課 上嶋 芹菜

【はじめに】

但馬のブロイラー産業は、インテグレーション (インテ) を取り入れた構造基盤により支えられ発展してきました。現在、但馬地域には県下のブロイラー戸数の 60.4%、飼養羽数の 68.8% が集中しているため、HPAI が発生した場合、生産や流通に影響が出ます。そこで、HPAI 発生時の但馬地域のブロイラー産業への影響を最小限にするために、インテとの組織的な防疫強化に取り組みました。

【取組と成果】

(1) 鶏病防疫委員会の開催：インテ 6 社で構成される委員会において防疫指針及び飼養衛生管理基準の遵守についての情報共有や HPAI 発生時の初動防疫について打ち合わせました。これにより、防疫意識が高まり、傘下農場での防疫演習が決定しました。

(2) 飼養衛生管理基準の指導：インテとその傘下農場に対して、飼養衛生管理基準の遵守指導と農場ごとの飼養衛生管理マニュアル作成指導を行いました。その結果、飼養衛生管理マニュアルはインテ傘下の全 53 農場で作成されました。さらに、インテ 1 社の傘下 6 農場の農場出入口に車両消毒と記帳ができる管理ボックスが設置され (写真 1)、防疫レベルが向上しました。

(3) 防疫演習の開催：HPAI 発生を想定した防護服着脱の実演等の動員者説明会の後、農場にバスで移動し、生鳥を用いた捕鳥・殺処分・密閉容器への移し替え等の実地訓練を行いました (写真 2)。

(4) 食鳥処理場防疫対応計画の作成：食鳥処理場の防疫マニュアルが未整備であったため、HPAI 発生時の防疫対応計画を作成



写真 1 管理ボックス



写真 2 実地訓練

しました。それにより、処理場、農林振興事務所、食肉衛生検査所との作業・役割分担を明確化し、具体的な防疫体制を構築できました。

(5) 再開条件の確認と指導：種鶏場やふ化場を所有するインテ 1 社に対して、移動制限に含まれた場合の再開条件と衛生対策の確認により、事前に問題点の改善指導ができました。

【まとめ】

インテ各社による組織的な取組により、情報共有による防疫意識の向上や、傘下農場での飼養衛生管理基準の徹底による防疫レベルの向上、並びに防疫演習を通じた実践的対応力が強化されました。さらに、食鳥処理場における具体的な防疫体制の構築や、ふ化場などへの衛生指導の実施により、但馬地域全体の防疫を強化することができました。

ヨーネ病スクリーニング遺伝子検査法の山羊における有用性の検討

衛生課 川口 黎子

【はじめに】

ヨーネ病 (JD) は、牛だけではなく、緬山羊にも下痢や削瘦などの症状を引き起こす法定伝染病です。

牛の JD 検査では、ELISA キットによるスクリーニング検査を実施後、定量判定リアルタイム PCR (qPCR) を実施して患者を決定しますが、緬山羊では認可された ELISA キットが無く、スクリーニング検査が実施できません。

そこで、市販されている JD 定性判定リアルタイム PCR 試薬 (写真) を用いた JD スクリーニング遺伝子検査 (sPCR) の山羊由来野外株における有用性について検討しました。



写真 sPCR用試薬 (株)ファスマックHP)

【材料と方法】

①令和3年1月に採材した、ヨーネ菌 DNA 量が判明している山羊の糞便 16 検体について、糞便液を作成後、sPCR を実施しました。②①の検体のうち、DNA 量が 0.0004~0.04 pg/well の 10 検体について、JD 陰性糞便液で 10 倍希釈した 10 頭プール検体を作成し、sPCR を実施しました。③検査所要時間や試薬単価等について、sPCR と qPCR とを比較しました。

【結果】

①15/16 検体が陽性を示し、このうちヨーネ菌 DNA 量が 0.001 pg/well 以上であった検体 (定量陽性検体) では 14/15 検体 (93.3%) が陽性を示しました。②8/10 検体が陽性を示し、希釈前に定量陽性であった検体では、8/9 検体 (88.9%) が陽性を示しました。③sPCR の所要時間は qPCR よりも約 15 分短縮され、さらに、DNA 抽出の工程においても、所要時間の短縮が見込まれます。試薬単価は sPCR を行うことで約 37,000 円削減することができました。

【まとめ】

sPCR は個別検査・10 頭プール検査の両方で高い検出率を示しました。また、qPCR よりも安価で所要時間も短く、プール検体による検査労力の軽減が見込まれます。以上のことから、sPCR 法によるスクリーニング検査は山羊においても有効と思われます。

今後は農場での検査回数を重ね、プール検査の実施基準や最適なプール頭数などについて、検討を行っていきます (図)。

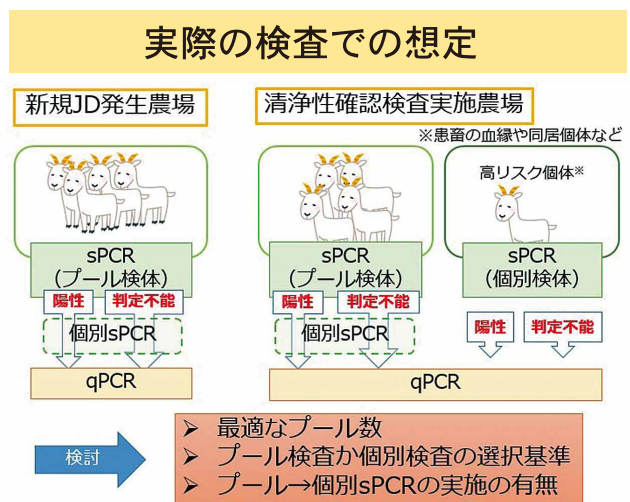


図 実際の検査方法想定

家畜防疫情報

北海道の採卵鶏農場で発生した高病原性鳥インフルエンザの 防疫措置に参加しました

防疫課 小浜 菜美子

令和4年4月16日、北海道白老町の採卵鶏農場で高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) の発生が確認されました。当該農場は採卵鶏を約52万羽飼養しており、昨シーズン最大規模の発生農場です。兵庫県からは2名の家畜防疫員が応援要請に応じ、筆者は4月19-20日の防疫措置に参加しました。

参加初日は発生地テントでの資材管理、2日目は農場での殺処分班を担当しましたが、最初に痛感したのは北海道の寒さでした。鶏舎内は暖かくても外に出ると体温を奪われ、疲れた体に寒さが響きました。指揮をしている家畜防疫員でもそのような状況です。実際に捕鳥やガス殺などに当たる動員者の方々の表情は、時間の経過とともに陰りが濃くなりました。1時間経過する毎に15分程度の休憩を挟み、休憩明けには動員者の体調確認をするよう心掛けました。

当該農場はウィンドレス鶏舎で、全ての吸気口に野生動物侵入防止のための金網が設置されており、鶏舎内も清潔に管理されていました。また、疑似患畜鶏もふっくらした羽艶の良い個体ばかりで、丁寧に飼育していたことが窺えました。しかしながら、国の疫学調査では鶏舎横の鶏糞堆積場及び堆肥場に防鳥ネットが設置されていなかったこと、これらの場所に野鳥の飛来が確認されたことなどが指摘されています。HPAIを発生させないために、家きん飼養者の皆様においては、鶏舎内だけでなく飼養衛生管理区域全体に眼を向けるとともに、飼養衛生管理基準の遵守をお願い申し上げます。飼養衛生管理基準については家畜保健衛生所のHP (以下 URL) に掲載されています。関係者の皆様は是非ご一読ください。

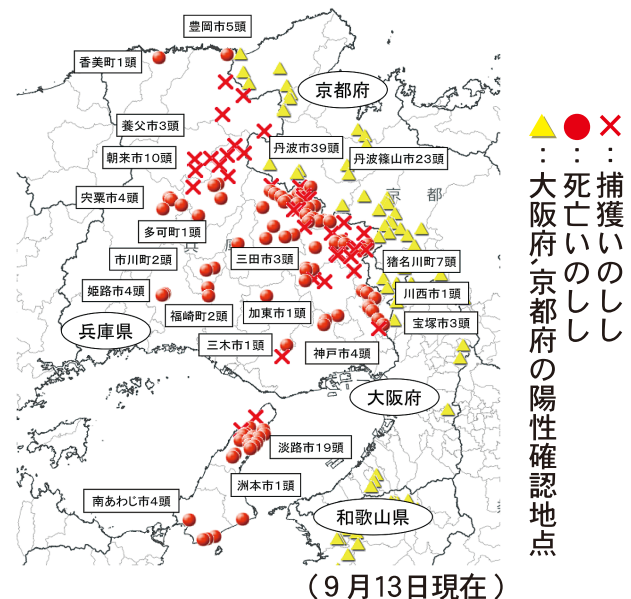
<https://kaho-hyogo.sakura.ne.jp/kaho/>

家畜防疫情報

県内で野生いのししの豚熱感染が拡大しています！ 豚・いのしし飼養者は飼養衛生管理基準を遵守して農場を守りましょう

国内養豚場での豚熱発生は令和4年9月13日現在で第83例となっており、令和4年4月以降では6例発生しています。

本県の養豚農場での発生はありませんが、野生いのしし (死亡及び捕獲) で138頭 (9月13日現在) の感染が確認されています (右図)。当所管内では今年度に入って、朝来市、養父市、香美町で確認されるなど、野生いのししへの感染拡大が続いています。



呼吸器疾患に気をつけましょう

病性鑑定課 榊原 啓太郎

令和3年度に当所では72件の牛の病理解剖検査を実施しました。内訳を整理すると、呼吸器疾患が21件、消化器疾患が20件と2つの分類が多数を占めていました(図)。

呼吸器疾患では、牛マイコプラズマ肺炎が6割以上で確認されています(表)。この疾患は多頭飼育の子牛で発症しやすく、発育不良の原因にもなります。

他の子牛へと伝播しやすいので、同時期に多数の発症牛が出ることもあります。また、他の病原体との混合感染や二次感染により症状が悪化することもあります。

感染予防(飼養衛生管理の徹底や牛舎の換気、呼吸器病のワクチン接種を行う)と流行防止(調子の悪い牛や風邪の症状がみられる牛を隔離する、早めに獣医師に相談する)を心がけましょう。

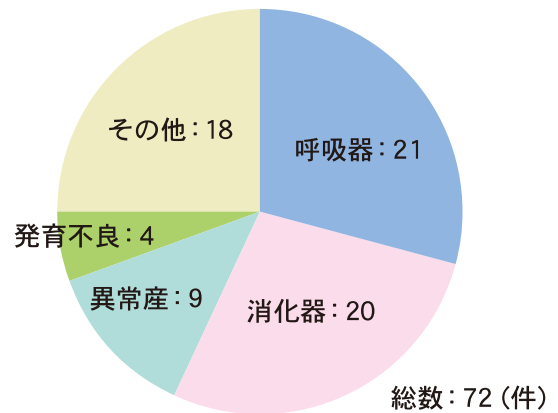


図 令和3年度における牛の解剖結果内訳

表 呼吸器疾患の内訳

呼吸器疾患	件数
牛マイコプラズマ症	13
牛パスツレラ症	5
その他	10

(混合感染の場合は個別に計上した)

全国和牛能力共進会鹿児島大会の出品牛が決定

衛生課 浦本 京也

令和4年7月25日丹波篠山市で全国和牛能力共進会兵庫県最終予選会が開催され、1~4区および6区の出品牛が選定されました。県内各地の予選会を突破した34頭が集合し、種牛としての育成・管理状態を競いました。炎天下の中で各JA関係者の皆さんの熱い視線を受けながら、神戸大学、全国和牛登録協会と県北部農技センター等による審査が慎重に進められました。その結果、当所管内からは表のとおり選定され、鹿児島での本番における活躍が期待されます。

表 全共出品牛種牛(管内)

区	名号	出品者(敬称略)	
1区	茂鐘波	新温泉町	中井 勝
2区	こうふく735	香美町	上田 伸也
3区	ただにしき	新温泉町	中村 文吾
4区	まりな6	香美町	淀 貴至
	ゆりか2	豊岡市	谷口 衣津美
	よしの	豊岡市	小牧 伸典
6区	おおみぞ7の3	新温泉町	村尾 和広
	ちはるふく3	新温泉町	中村 文吾
	おふくてる	香美町	上田 伸也
	よしふく5	新温泉町	植田 秀作

新任職員紹介



この4月より病性鑑定課に配属されました、栗原秀弥(くりはらしゅうや)と申します。出身は広島県広島市、大学は北里大学を卒業しました。新卒で社会の波に揉まれながらも、趣味のテニスでリフレッシュしています。

現在、細菌検査を担当しておりますが、病理解剖も細菌検査も、社会人になって初めて経験しました。配属されて5ヶ月経ちますが、まだまだ分からないことだらけで、勉強しないといけないことが山積みです。ただ、『習うより慣れる』という言葉もあるので、勉強だけでなく、しっかり慣れていこうと思います。よろしくお願いします。

はじめまして。防疫課に配属されました、近山優(ちかやますぐる)と申します。乳牛の定期検査や発生予察検査等で生産者の皆様にはお世話になります。出身は宝塚市です。身長が185cmあるので、「デカい人がいるんだな」と覚えて頂ければ幸いです。

当所に配属される前は、北部農業技術センターの臨時職員として勤務していました。但馬牛改良の現場を目の当たりにして、改良の難しさや生産者の方々の但馬牛に対する情熱を実感し、私も力になりたいと思い、兵庫県に就職しました。

先輩職員方のご指導の下、皆様のお役に立てるように努力していきたいと思っておりますので、ご指導よろしくお願い致します。

はじめまして。衛生課に配属されました、田丸大智(たまる だいち)と申します。この3月に鳥取大学を卒業し、陸路で約90kmの当所にたどり着きました。

大学で牛や鶏に興味を持ち、畜産に関わる仕事をしたいと考え、魅力的な和牛の産地である兵庫県に就職しました。早く一人前となり、管内畜産振興のお役に立てるように精進します。よろしくお願いします。

令和4年度 職員配置

所長	かと 加登	たけし 岳史	(畜産課より)
副所長	まつだ 松田	しんすけ 晋介	
衛生課		防疫課	
課長(副所長兼務)		やまぐち 山口	えつじ 悦司
農政専門員(再任用)	うらもと 浦本	きょうや 京也	
担当課長補佐	こじま 小島	よしお 好雄	
職員	かわぐち 川口	れいこ 黎子	
職員(新任採用)	たまる 田丸	だいち 大智	
会計年度任用職員	あだち 足立	えり 恵梨	
		こはま 小浜	なみこ 菜美子
		うえじま 上嶋	せりな 芹菜
		ちかやま 近山	すぐる 優
			(新任採用)
		みやけ 三宅	ゆりこ 由利子
			(但馬牧場公園より)
		さかきばら 榊原	けいたろう 啓太郎
			(淡路農業技術センターより)
		くりはら 栗原	しゅうや 秀弥
			(新任採用)

04農②-005A4